

令和3年度 第2回阿見町教育振興基本計画策定委員会 議事録

日 時 令和4年3月24日(金) 午後7時～9時

場 所 阿見町中央公民館 集会室

出席委員(10名)

中島委員長 綾部副委員長 宮崎委員 高藤委員 滝本委員
高野委員 野呂委員 永井委員 浅野委員 本橋委員

欠席者：栗山委員 山崎委員

事務局

立原教育長 小林教育部長 東指導室長 恵美学校教育課長
飯塚課長補佐 大澤

コンサルタント

(株)都市環境計画研究所 大竹 長埜

1. 開 会

事 務 局：皆様こんばんは。本日はお忙しい中、夜分にお集まりいただきありがとうございます。本日の進行を務めます、学校教育課の大澤と申します。よろしくお願いいたします。開会に先立ちまして、お配りした資料の確認をさせていただきます。

《 配付資料確認 》

また本日の会議ですが、町の審議会については原則公開することになっておりますので、会議内容や議事録については後日、町のHP等で公開いたします。録音と写真撮影もさせていただきますので、予めご了承願います。発言内容については、ある程度要旨にまとめさせていただきます。

それでは定刻となりましたので、これより「第2回阿見町教育振興基本計画策定委員会」を開会いたします。

2. あいさつ

事 務 局：はじめに、教育長より挨拶を申し上げます。

教 育 長：皆様こんばんは。昨年12月23日付で教育長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。お忙しい中、第2回阿見町教育振興基本計画策定委員会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。皆様の任期が令和5年3月いっぱいということで、それまでの委員会になります。今年度は2回、来年度は3回予定されているということですが、教育振興基本計画は今後の具体的な施策や事業を展開していく上で、大きな役割を担っています。本日の会議は二つの柱がございまして、策定方針および前提条件の整備と基本構想ということでご審議いただきたいと思います。皆様から忌憚らないご意見を賜り、より良い計画を策定できればと願っています。本日はよろし



くお願いします。

事務局：続きまして、委員長にご挨拶をいただきたいと思います。

委員長 本日はお忙しい中、お仕事後のお疲れの中、本当にありがとうございます。先日、小学校の卒業式に出席させていただきました。そこで感じたことですが、コロナの影響で今まで通りにいかなかった部分ではありますが、卒業生の姿を見るととても立派で、とても嬉しく思った次第です。また、校長先生、PTA 会長とお話させていただきましたが、コロナ禍で色々な活動が制約されている中、皆さんの工夫と言いますか、児童に如何により良い教育を届けるかというところで、かなりご尽力されていることを知り、頭の下がる思いをいたしました。



我々、策定委員としましては、教育振興基本計画をより良いものをつくることで、教育に携わる先生あるいは保護者の方々の後押しができたと思っていますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

3. 審議事項

事務局：それでは早速ですが、審議事項に移ります。

策定委員会規則第 6 条第 1 項により、委員長が会議の議長となりますので、ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：それでは審議に入りたいと思います。なるべく円滑な審議、進行ができるよう努めてまいりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

(1) 策定方針及び前提条件の整理について

委員長：まず「(1) 策定方針及び前提条件の整理について」、事務局から説明をお願いします。

《 事務局より説明 》

委員長：ありがとうございました。ここまでの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

副委員長：学力評価のようなものはデータで提示できますか。

コンサル：学力データについては学校の学力テスト結果がありますので、そちらを現況で捉えられたらと思います。追加できればと思っています。

委員 資料が膨大なため、質問や意見については範囲をしばっていただけると。

委員長：それでは分けていきたいと思います。まずは序章と 1 章の所で意見をいただきたいと思います。

委員：大変素晴らしい計画だと思いますが、阿見町というよりは他市町村どこでもできるものだと思います。例えば、阿見町はどのような所が弱いのか、大変なのか、学力の部分でここは弱いからそこを強くしていこうなど、具体的な部分が全然見えないため、阿見町の子どもの実態が全く感じ取れないです。抽象的なものでは

なく、具体的な施策が出てくるものだと思います。少し阿見町としての計画が分かるようなものにしたらよいと思います。

1 章の中には阿見町の内容が入っていないですが、例えば「(3)教育における情報化 GIGA スクール構想」とありますが、令和元年までは1人1台タブレットを持つという構想がありました。しかしコロナの影響でオンラインになり、GIGA スクールの当初の目標であった1人1台は既に達成したわけです。そうすると構想の次に行くもの、オンラインからプログラミング教育など、タブレットから様々な方向に行くと思います。ですから GIGA スクール構想ではなく、GIGA スクールの推進構想に入っていくのではないかと思います。

また、7 ページの文字がとても小さいので、もう少し大きくしていただければと思います。

8 ページ「(5)学習指導要領の改訂、実施」ですが、やはり予測困難な時代に子どもたちが生きる力をつけることが一番だと思います。そのため、「生きる力」という表現が文章の中に入ってもよいと思います。

委員長： 委員がおっしゃることはごもっともですが、序章と1章に関しては教育振興基本計画を策定する上での現在の状況、これまでの第1次計画の状況について書かれているものです。委員がおっしゃった部分に関しましては、策定の段階、第3回以降で盛り込んでいく内容になると思います。

GIGA スクール構想に関しても、推進という言葉を入れるのであればその後の第2次で入れることになると思います。

他にないようですので、2章、3章をまとめてご質問、ご意見を伺いたいと思います。

委員： 2章14ページ、人口推計については現状と乖離していると思いますので、この総務省データを使用してよいのでしょうか。人口が増えているのに、この将来推計で進めてしまってよいのかどうか1点目です。

2点目は16ページ、地区別人口構成が旧小学校区のグラフになっていますが、このままでよいのでしょうか。今は吉原小、実穀小がないので。

その次が20ページ、「(2)義務教育の現況」の文章の最後に耐震化について記載するのであれば、全校に冷暖房が整備されたことを記載してもよいと思います。

また、22ページの学校再編については色々な意見があると思いますが、第二小の再編が取り止めになったことは記載してもよいと思います。

「(4)高等学校・大学の現状」の連携事業についてはもう少し記載してもよいと思います。

最後に25ページ、コロナウイルスの現況があります。大変だと思いますが、小中学校の休校状況を記載した方がよいと思います。今は手間になるだけですが、将来的にはこのような状態で計画を策定したという資料になるため、記載した方がよいと思います。

事務局： 色々ご意見いただきましたが、コンサルと相談しまして、長くなると資料として見づらくなってしまう部分もあるため、検討させていただきたいと思います。

委員長： 他はどうでしょうか。ないようですので、次の議題に移ります。

- 委員： 23 ページのいじめ、不登校の問題についてですが、先程学力テストの数値についての意見が出ました。いじめ、不登校問題について、阿見町ではどの位の人数がいるのかは知りたいと思います。例えば、私も調べてみた所、令和 2 年度の県内小学校のいじめ件数は 17,791 件あります。茨城県の小学校は 475 校ありますので、計算すると 1 校あたりいじめが 37.25 件あることになります。阿見町には小学校が 7 校あります。はじめの策定方針に、誰でも平等にということを掲げているにも関わらず、いじめや不登校で学校に行けない問題があります。統計的なデータが資料の中にないため、大切な一人ひとりを見守るための資料として、阿見町の子どもの実態、学力、いじめなどの環境についてお知らせいただけたらと思います。
- 副委員長： 学校によって差がありますし、先生によって計上するいじめ件数も異なるため、現況を数として示すのが正しいかどうかは分かりません。
- 委員長： 県として把握している数字があるため、恐らく実態としては上がっているのではないでしょう。
- 副委員長： 数値としては上がっていますが、このような取組を行っているということも並列で記載しないとフェアではないと思います。
- 委員： 小学校の不登校が中学校の不登校になり、中学校の不登校が 40 代、50 代の引きこもりにつながるという話も聞きます。不登校は小学校にとって重要な問題になると思います。
- 委員長： 23 ページの表中に県のいじめについての現況はありますが、阿見町としての現況を数値として記載した方がよいという意見でした。その辺りはいかがでしょうか。
- 事務局： 現状はいじめの認知件数については非公表になっていますので、資料に記載できないという扱いにしています。いじめの件数については年度末で集計中であるため数値をお話しすることはできますが、資料として記載は難しいと思います。不登校の数値についても同様の取り扱いですので、会議の中のみでお知らせすることは可能かと考えます。
- 委員長： 委員、よろしいでしょうか。
- 委員： 実態が分からなければ策定ができません。
- 委員長： 実態は口頭でお話しされるとのことですが、数値を書面に記載することができないということになります。
- 委員： 私も同様に、全国、茨城県、阿見町という流れで数値を記載した方が分かりやすいと思います。いじめ、不登校の件数は開示できないという話がありましたが、県の数字は記載してもよいが、市町村の数値は開示できないというような規則があるのでしょうか。
- 事務局： いじめの件数は年度末に学校から上がってくれば分かりますし、いじめの対応等についての大まかなデータも出てくると思います。それを表に入れていいのかわかるかはこの会議だけで決めることは厳しいと思います。検討して入れても問題ないということであれば入れる方向で進めたいですし、入れないということであれば入れない方向で進めていきたいです。

委員長： 非常に神経質な件ではあります。

委員： よろしいですか。そもそも阿見町教育相談センターの現況に、いじめ、不登校の数の表がクローズアップされていることはどうなのかという思いが正直あります。今おっしゃったように、いじめの認知は非常にまだまだ統一感がなく、変な話ですが、いじめは認知しなさいという動きが非常に大きいです。そのため、いじめの認知件数はかなり上がっています。問題はそれが解消しているか、していないか。殴り合いが発生して殴った、殴られたでいじめとして数えると 2 件になります。

裏の背景がなくても、心身の苦痛を訴えればいじめと言われるのであれば、2 件としてカウントされてしまいます。でもこれを 2 件として数値を取っている学校がどれ程あるかと言った時に、非常に学校差がある中で、一定数を出さなきゃいけないまとめを県、全国がしています。申し訳ないのですが、この数値自体が本来危機的ないじめかどうかという部分に関して、非常に怪しい数値です。その中で相談センターの現況としてこの数値が出ていることの方が違和感があります。むしろ相談センターの実績によって、お預かりしたお子さんはこのようなことになっているというような、例えば経年変化があって非常に機能的であるとか、少し機能が停滞しているということであればそれをいじって行って、求めに応じられるような形になっているかということを出した方が、相談センターの現況は分かると思います。

不登校の子どもたち全員が相談センターに行けるとも限らないのです。なぜかということ、立地条件から行きたくても行けない子どもがいます。そのような問題をあげてもらった方が現況は見えると思います。いじめに対応しているのか、不登校に対応しているのかということ、それもまた微妙な気がしますので、そもそも全国、県のいじめと不登校件数を出すこと自体がどうかと思います。お預かりした子どもがどのような形になっていて、どのような前向きな活動ができるのか、そして本来やるべき活動はこのような事情でできない、もっと集めたいけれどここが問題になっているかというようにした方が、突破口は見えると思います。

委員： いじめをしている子どもはいじめだと思わないでしている人もいますし、先生も主観が入ってしまいます。そのようなケースは沢山あります。しかし、自殺する子が大変多いです。自殺した後に、誰にいじめられていたかなどが分かるケースが多いです。1 人の大切な命がなくなってからこれがいじめだと判明し、教育委員会が調査したのでは遅いのです。

委員： 教育相談センターがそのような機能があるかどうかですよね。今みたいに自殺を食い止めるような、例えば相談案件があるというようなことがあれば、むしろそのような言葉で書いて、そのような機能があるということであればもっと啓発しなさいと、そんな機能があることすら町民として知らなかったなど、そちらの方が大事だと思います。あくまでも項目は阿見町教育相談センターの現況なので、現況をお知らせする形がよいと思います。

委員長： 貴重なご意見ありがとうございます。確かに教育相談センターの現況に全国、県のいじめの状況を一緒に記載するのは印象としてもよくない気がします。もし

入れるのであれば別の所に入れていただいた方がよいのかもしれません。いじめの認知の仕方もそれぞれ異なっているのであれば、あまりこれは意味がないような気がします。ざっくり削ってしまってもよい気がします。

委員： 先程、いじめ、不登校の問題の数値を記載するという話が出ました。今のコロナ禍に、それを全部記載する必要があるのかどうか、もう一度考えていただきたいです。何を求めるのか、記載することで子どもが特定される可能性もあります。そこまでして載せる必要があるのかどうか、今一度検討していただきたいと思います。

私達がなぜその部分を知らなければいけないのか、という認識です。知って、それに対してどうするのか、できないのであれば載せる意味がないです。載せる以上は何らかの手段を取らなければいけないため、あえて載せる必要はないと思います。

委員： 私もここに載せるか載せないかということを言いたいわけではないです。そのような実態があれば、その実態に対してどのように阿見町では取り組んでいるかという事実が必要です。もしそのような実態があればケアする、このようなケアがあった方がよいというのを策定の中に入れてほしい。

この策定委員会は一体誰が見るのですか。先生ですか、教育関係の方ですか。

事務局： 町ホームページで公開します。

委員： いじめ、不登校の子がいれば、このような取組を行っています、このように指導していますというような施策をきちんと書けばよいと思います。学力も何にしても、やはり阿見町の実態というのはそういうものですから、学力が低ければこのような取組を行う、その施策が必要だと思います。

委員長： そうしましたら、今お伺いしている中で、いじめの件数、不登校の件数はあえて載せない方よいのではないかという意見が出されていると思います。ぜひ載せた方がよいという方がもしいらっしゃるのであれば、ご意見をいただきたいです。いらっしゃらないのであれば、この章については削除していただき、代わりに教育相談センターの現況の所で。これもどのようなことが行われるかを細かく書くことは、やはり個人情報のあることでもありますので少し難しいと思います。

副委員長： 例えば中学生の不登校の生徒でも定時制高校の受験をしているなど、例のようなものは載せられるという感じなので、取り組んでいる事例を少し挙げてみるくらいまではできるかもしれません。

委員長： 抽象的かもしれませんが、人が特定できないようなもので、実際に大きく行っている活動をクローズアップしていただけるとよいと思います。

事務局： ご意見を参考にして、文言や具体的な事例を抽出しつつ内容を充実させて、表については削除することで検討したいと思います。

委員長： 確かにいじめ、不登校が全て相談センターに直結するように見えてしまうので良くないと思います。他にはいかがでしょうか。

委員： 今、流行になっているヤングケアラーの問題は教育委員会では何か調査するか、議論になっているとか、あるいは困っている子どもがいるケースはないのでしょうか。私が現場にいる時も、両親の世話で学校に来られないと思われる子ども

もがいました。それがただの不登校という形になってしまいました。この子どもは確かに不登校だけれども、意味合いが少し違うと思います。今、クローズアップされてきて、それについてのケアを行政、これからの教育の中でどのように光を当てていくかだと思います。

委員長：何か情報はお持ちでしょうか。

事務局：学校でもアンケート調査をしましたが、そのような子どもたちは学校のアンケート結果ではほとんどいなかったです。子ども家庭課と連携しながらヤングケアラーに近い現状にある家庭、また子どもたちに関しては子ども家庭課、民生委員などと協力しながら対応しています。委員からありましたように、地域・学校だけでは難しいところもあるので、関係機関と連携しながら対応を進めているところです。子ども食堂なども今は活動が盛んになってきていますので、情報共有して対応していきたいと考えています。

委員長：事務局でもその情報は持っていないため、ここで書くことはできないということをご了承ください。2次計画の中では織り込んでいくことは可能かと思うので、その方向で進めていきたいと思います。

委員：もちろんいないのが一番ですが。

委員長：学校にはカウンセラーもいらっしゃいますので、そのような方々に対応いただき、情報収集していただければと思います。他はよろしいでしょうか。

それでは4章に入りたいと思います。ご意見ご質問がありましたらお願いします。

前回、委員から現行計画がどのような状況なのかという質問がありましたが、恐らくこれが答えになっていると思います。

副委員長：先程コンサルにお伝えしたのですが、何割という書き方から何%という数値に置き換えた方が読みやすいです。

委員長：4章の中で漢字が違う所があります。

副委員長：仮名も間違っている所があります。

委員長：修正をお願いします。他はどうでしょうか。

委員：あれだけアンケートの時に騒いで申し訳なかったのですが、Webアンケートを回答しました。思ったより簡単でした。

委員：28ページ、CS分析の文字と背景が同色で非常に見づらいと思います。色を変えると見やすくなると思うので、検討していただきたいです。

委員長：修正をお願いします。他はいかがでしょうか。

委員：当初、回収率で騒ぎましたが、結局紙でもWebでもあまり変わらない数字で、あまり懸念する要件ではなかったと思います。かえって教職員の方がWeb回答率は少なく、紙が多いという結果でした。

委員長：今後のアンケートの参考にしていきたいと思います。他はよろしいでしょうか。図、文字の大きさ、色、誤字脱字については修正をお願いするということで。他にないようであれば5章に移りたいと思います。

全体的に表の文字が、もう少し大きいとありがたいと思います。あとは直接打ち込んでおらず、PDFを貼り付けて作成していると思いますので、どうしても字

がかすれてしまいます。せっかく出すものですから、読みやすい形にしていだけると助かります。

副委員長： 37、38ページに何が書いてあるのかさっぱり分からないのは私だけでしょうか。抜いてもよいと思いますし、学校概要を文章で書くだけでもよいと思います。39ページからはアンケートというのが分かるため、ある程度読めますが、施策を数値であげられても困ってしまいます。何かあれば修正をお願いしたいです。

委員長： 大まかには分かりますが、あまり意味がないような気がします。

副委員長： 表の上の文章だけでもよいと思います。よくできたのはこの施策で、よくできなかったのはこの施策という書き方でよいと思います。

委員： AかBなどの評価、パーセンテージなどを記載した方がよいと思います。何回したかの回数ではなく、結果の方が大事だと思います。A、B、Cと記載した方が分かりやすいと思います。

委員長： A、B、Cというのはどの部分になりますか。

委員： 39ページの表の所です。このような形で記載した方がよいのでは。

委員長： 39ページの表に関しては進捗率の表、アンケート結果です。

副委員長： アンケート調査の保護者と町職員は客観的な数値ですが、庁内評価は数値になっているだけで主観になっている可能性もあり、何て言えばよいかわかります。潔く、保護者と教職員の数値だけでよい気がします。

事務局： 37、38ページについては施策の数だけ書いてあり、具体的な内容が読めないの、表を削除して解説文章等の表記に変えた形で修正したいと思います。

副委員長： 39ページの達成度評価という数値ですが、庁内の達成度評価は数値で表せるものなののでしょうか。元々のデータを見ていないため分かりませんが、アンケート調査は数値に丸を付けるものでしたので、客観的な数値だと思います。庁内評価が何で付けられているかが分からないと思いました。

コンサル： 参考資料1の99ページの表に、左から基本目標、基本方針、具体的施策という形で計画の内容が整理されています。具体的施策細目という内容がありますが、この内容につきまして、それぞれ右側からA、B、C、Dとありますが、Aの部分が進捗率を示しており、具体的施策の進捗率が概ね完了した、見込みなし、廃止など実施5段階評価で担当課に評価をいただいています。また、Bの部分については評価となっています。5段階評価で、5が期待される成果が上がっているといったように、同様に担当課から評価をいただいています。Cの部分については、現計画の施策自体が2次の位置づけとして必要であるかどうかという所を聞いており、Dの部分については進捗率評価の理由を具体的に書いていただいています。

先程の資料1に戻りますが、Aの進捗率というのが、先程の5段階評価の進捗率というところに関連してきていると、Bは同じように先程のBの評価という所がきています。それぞれ計画の体系として横並びにできる数字ですので、先程施策の評価というものと、アンケートの保護者の結果として、教職員の結果を横並びにした時にどうなっているかを分析した内容となっています。

副委員長： 結論は、庁内の評価は高いけれど保護者、教職員は満足していないという数値が出てしまっていますがよいのでしょうか。

コ ン サ ル : 少し補足させていただくと、41 ページからその結果を横で比較した内容となっており、41 ページの①については施策効果が低いと思われるという所で書かせていただいています。庁内評価では、進捗率は高いけれども町民の方にとっては満足度が低いという内容に色が塗られており、グレーに塗られている所が上位 10 項目になります。保護者と教職員の方が主に施策評価が低いと思われる内容と、右側は進捗率は低いけれども町民の重要度が高い内容というのが、上位 10 項目で入っています。

副 委 員 長 : この計算は保護者の進捗率から保護者の満足度を引いているのでしょうか。

コ ン サ ル : それぞれ保護者の方の 5 段階評価をポイント換算して、最大満足度を 5 ポイント、そしてポイント換算した結果が保護者の方で数値が並んでいます。職員の方も先程の CS 分析散布図の方で示した満足度の 5 段階換算した数字が、教職員の所にも入っています。

副 委 員 長 : この計算が適切かどうか判断しかねますが、別々の項目で得点を算出してその差を計算するのはよいのでしょうか。何かよく分からないことをされているような気がします。あるがままの得点で比較した方が、いっそのこと庁内の達成率マイナス保護者の達成率の方がクリアな気がします。あまりここはいじりすぎない方がよいと思います。

コ ン サ ル : 少し整理させていただきたいと思います。

委 員 : これだけ細かく資料を作成しているのは尊敬敬服いたします。

委 員 長 : 施策の取捨選択という意味では理由づけのように捉えられてしまう気もします。

委 員 : 38 ページ、③2 次計画への位置づけとありますが、その中の 4 行目に「躯体」とありますがどのような意味でしょうか。読むと体育館という感じを受けます。

委 員 長 : 一般的には使用しない用語ですかね。

事 務 局 : 分かりやすい表現に修正したいと思います。

コ ン サ ル : カッコの中は特に表示しなくてもよいので、「学校施設の耐震化」だけにさせていただきたいと思います。

委 員 長 : 他はいかがでしょうか。先程の進捗率、達成度評価に関しましてはこれも検討していただくということでよろしいですか。

事 務 局 : 達成度評価については再度検討させていただきたいと思います。

委 員 : 今の部分に関連しますが、庁内の達成度評価を見ているのですが、何をしたら進捗があったと、それが果たしてどうなのかと思う所があります。例えば、学習意欲などもそうですが、教科担任制をどのように導入するか、どこまでやったからというのは、よく見えないままの達成度だと思うので、現場と乖離してしまうと思います。

例えば、ここまで精一杯やっていることが話を聞くとよくわかるレベルでも、国の水準から考えるともっとできる、教科担任制もまだまだできるという印象になります。指導者としてはもう本当にやれる精一杯でここまでやっている、だからそこをわざわざもう出していく、比べる必要があるのか、違ってきてしまうと思います。むしろ庁内はその水準でよいのか、それなりに精一杯やっていただい

ているのに、そのように捉えられてしまうのは少し違う所もあります。

致し方ないこともあると思います。予算など色々なことがあって動ける範囲も異なり、保護者が求めることと教職員が求めることはまた少し違うと思います。

むしろアンケートの結果、保護者、教職員の意識として足りないもの、求めているものをクローズアップしていただいた方がよい気がします。

逆にあまりそれを表に出すと、基本計画を立てたから今度はきちんとやってくれるだろうと、これもまたずれてくると思います。この 5 年間どうしてくれるのかという方向に行く可能性もゼロではないです。言いたいことは沢山ありますが、その気持ちも分かるためあまり言わないようにしている部分もあります。できる範囲がやはりあるので、むしろ庁内は精一杯やった上での評価でよいと思います。

今の学習意欲を比べた時に、庁内でやるべき学習意欲の施策が果たして本当に私達が言っている学習意欲とリンクするかというと、教科担任制を行えば学習意欲が上がるのかというと、そんな簡単な問題ではないです。だとすると、そこに特化した値でしか出てないため、少し違う気はします。

副 委 員 長： 39、40 ページは書き方をよく考えないといけません。庁内では良いと思ってても保護者と教職員は逆の結果ですし、41、42 ページも学校教育に関係ないものほど上位に上がっています。これをこのまま出してしまうと、学校についてはきちんと取り組んでいることが分かり、逆にそれ以外のことを頑張してほしいという方向に行きかねないため、少し違う表現の仕方があると思いました。

委 員 長： 検討していただければと思います。数字がひとり歩きしそうです。

コ ン サ ル： こちらは達成度状況ですので、前回の計画からどのくらいの達成状況かを調べるために行っています。先程、参考資料の方で個別の施策を調査して、それを計画の体系に落とした時に、体系ごとに進捗状況はどうかというところを計算して数字として表しているという状況ですので、そのような形で整理をした所です。見やすさ、分かりにくいという所についてはもう一度精査して、検討したいと思っています。

委 員 長： 他はいかがでしょうか。5 章については大丈夫でしょうか。ないようであれば一旦切らせていただきまして、6 章に入らせていただきます。

副 委 員 長： このような場所で言うてはいけなかもしれないかもしれませんが、ある学校でコロナ禍にタブレットを使用できず、とても苦勞されているのを見ているため、あっさり書くのもよいですが、具体的にこのような状況で次はこうしたいといったことを書いてしまってもいいのかと思っています。学校によって違うということを、全校回ったため知っていますが、本当に苦勞して、そして改善できる所も結構あるので、抽象度が高くななくてもここは校長会でも保護者の代表の方にも見ていただいて、このような課題があるということを書いてよいと思いました。

委 員 長： 確かに課題であるため、具体的に何かあった方が取り組みやすいという気はします。

副 委 員 長： 令和の日本型教育は阿見町の代表になっていないですし、阿見町のエデュケーション課題の整理なら阿見町のエデュケーション課題で整理した方が早い気がします。コンサル的な日本語ではなく、今の阿見町はこうであると書いてしまった方がよいと思います。

事務局： 校長会にもヒアリングをして、それを加味した内容でもありますので、一応いただいたご意見について記載しているものではありません。

委員： 各学校で実態は様々で、十把一絡げに課題と言えない部分もあります。例えばオンラインの環境整備という点でも、全く問題のない学校もあります。一方で非常に苦勞している学校もあり、なかなかストレートに阿見町の課題と言えないです。校長会でも私の学校ではということと言わせていただいたものですので、このような学校があるという事実でしかないと思います。ただ、大きな課題ではあると思います。

同一步調でいかないというところが、けれども同一步調でいいのかと言うのも違うと思うので、むしろそれぞれの実態や特色に応じたやり方が、もっとしかるべき形でできると思っている所があります。ただ、指示系統としては、県も一斉休校でリモートを要請する指示が来れば、当然町はそれに従うため、なかなかその辺りの所が、応じられるか応じられないかといえ応じられない学校があることは課題だと思います。いい意味でも悪い意味でも非常にバリエーションに富んだ学校を抱えている町だと思います。

今後の計画の方にどう反映するのか、私は逆に楽しみです、なかなか教育課題と言っても学校ごとに実態が違ってくるため難しいです。そういう課題を持っている学校があるという認識で見てもらえるとよいです。全部の学校がこれに当たっているかというところでもないですが、出しておかないと課題として見えてこない苦しさはあると思います。

副委員長： ここに書く内容として、各学校の格差が大きいと書いてほしいです。抽象度を高く書くのではなく、阿見町がそういう町だと書いてくれないと、逆に困ってしまう気がします。みんな平均的な所ではなく、田舎もあれば都会に近いところもある、規模も違うし保護者の地域性もあるという難しい所をどうやってまとめていくか、みたいなことをここに書いてもらうのが現実的な話かと思っています。

委員： 学校の問題ですね。君原小が阿見町で初めて小規模特認校になったという輝かしく歴史に刻まれることがあったにも関わらず、教育委員会は何も知らず、盛り上がりがないです。新しい何かをした時には、阿見町にはこのような新しい学校があるのだという認識をもう少し広めていただきたいと思います。

やはり文科省が出すのは全国で平均的に出すもので、先程おっしゃったように大規模校もあれば小規模校もあり、山奥には3人位の学校もあります。それが地域ごとに成り立っているため、違ってよいと思います。そのような所も考えていただきたいと思います。

委員長： 委員が言われた小規模特認校に関しては記載があります。

コンサル： 6章記載の内容ですが、それなりに網羅的に固めたつもりですが、地域性、学校ごとの違いを取り上げていないという所はご指摘の通りだと思います。課題として、全ての学校に当てはまるわけではないですが、このような重大な課題があるといった所をこれから拾い、精査させていただきたいです。

また、アンケート調査で公表するかどうかという所がありますが、学校毎のデータをもし取れていれば分かったと思いますが、状況に応じたアンケートの中でも

町独自の課題と思われるところは記載を検討したいと思います。

副委員長： 課題と書いてしまうと問題のある話になってしまうため、強みを同じ分量で書いた方がよいと思いました。弱みとまでは言いませんが、課題もあります。別によい所もあるといった形の情報の整理として書いた方がよいと思いました。

コンサル： 強みと弱みの整理ということでしょうか。

副委員長： 弱みまでは言いませんが、課題もあります。よい所もあるといった形の情報の整理として書いた方がよいと思いました。

委員長： 先程話に出ていた君原小の例についてはプラスの意味で書かれていますので、そのような所をまず入れていくとよいと思います。課題だけ書いてしまうと課題だけクローズアップされてしまいます。

副委員長： 課題だけ書いてしまうと課題解決になってしまうため、よい所は伸ばして悪い所は止めようといった計画を立てた方が現実的な気がします。

委員： 地域性があると思いますが、生まれた地域や家庭環境によって受けられる教育に格差を生まないということがあるわけですね。そのように考えると難しいことですが、ここまでは全ての学校でベースとしてお金を使う、ここからは各学校で特色を出してくださいというラインが必要だと思います。そこまでのお金を教育委員会はしっかり担保して出していく、これは議会も含めてです。

私は守谷の学校に勤めていますが、守谷は教科担任制で、莫大なお金を出して独自に教員を確保しています。これは議会が承認しています。議員の力がないと教育委員会では動けないです。まさに地域差になってしまいます。守谷の子どもたちにとってはものすごくありがたいです。守谷に住んでいるからそのような恩恵を受けているわけです。阿見町は人口増加で3番目になっています。つくば、守谷、阿見町、それならこの阿見町で他市に負けない教育のベースを作ってくれたら、そのような気概を持って議会と教育委員会がタイアップして、学校、子ども、家庭を応援していくというベースがなければ、このような議論をしていてもだめだと思います。

4章に町民ニーズという項目があります。その中のアンケート結果に、具体的に困っていることがいっぱい書いてあります。まずここを拾い上げて、そして具体的にどう格差をなくすのか。この中に、例えば学校の設備や施設で、まだトイレの改修が終わっていないということが書いてあります。私は具体的には分かりませんが、本当にこんな学校があるのか、本当だったら阿見町は笑われてしまうと思います。そのようなベースをまずはしっかり持ってほしいです。そこが子どもたちに格差のない環境で、子どもたちに教育を受けさせるベースだと思います。

その後のことも、例えば国はタブレットを1人1台配りました。しかし配ったから終わりというわけではありません。その後の方が大変なのです。その後のフォローをどのくらい教育委員会がしているかということです。使い方のフォローから修理修繕など、莫大なお金がかかります。長年教員をやってきて、今まで教育費を沢山使ってきましたけれど、残っているものは何もありません。つまりこのタブレットを1台ずつ配ったけれども、これも結局使われなくなってしまう。莫大な金を使う割に教育環境として、本当にこれがお金を使った分だけ子どもた

ちの学力向上に繋がるのか。教育費を使ったら学力が下がったケースの方が実は多いのです。

ですから国の政策ではなくて阿見町の基準で、子どもたちの学力を上げるのか、それから 1 人 1 台っていうのはもう達成したのだから、それをどうやって町で維持するのか、そのようなことをしっかりと予算的なものでフォローする、人的なものでフォローすることを考えて、あとは学校でそれをどのように活用するか、あるいは子どもが学力あげるためにどう利用するか。

私の学校では 1 人 1 台は買わないです。120 台で十分です。タブレットが必要な授業の時に使用します。タブレットの使いすぎは学力が下がり、授業が遅れてしまいます。毎時間タブレットをいじると授業が進まないです。そのようなことを考えないで、機械さえ与えれば学力が上がると考えるのはとんでもない間違いです。そのことは先生は知っています。配られてしまったから仕方なく使用しています。

町民ニーズの動向という項目がこの中に書かれていますが、アンケートの中で困っていることに光を当てて、どここの学校でもこれだけはできたというものがあるととてもよくなると感じました。

委員長：非常に貴重なご意見だと思います。かなり修正が必要だと思います。確かにニーズを掘り下げていくということも、やはり概論ではなく各論まで行ってしまってもいいような気もしますので、この 6 章の課題の整理については大変かもしれませんが、検討していただければと思います。

ニーズに関して、先生の数が足りないというのは本当によく先生方が書かれていることですので、議員さんもうらっしゃいますのでぜひよろしくお願いします。

他はどうでしょうか。なければ全体を通して結構ですので、何かありましたらお願いします。ないようであれば、議題（1）についてはこれで終わらせていただきます。

（２）基本構想(骨子案)について

委員長：（２）基本構想（骨子案）について、事務局から説明をお願いします。

《 事務局より説明 》

委員長：ありがとうございます。では、ご意見ご質問等ございましたらお願いします。

委員：SDGs は 17 項目ありますが、例えば阿見町として、特にこれから先に SDGs として力を入れたい所はどこか決まっているのでしょうか。もし決まっているとすれば当然、学校教育としてはその担い手である子どもたちをそういう方向に育成しなければいけないと思うので、例えば町として SDGs をこう捉えているというのがないのに言われても、まちまちになりますよね。学校で SDGs の 17 項目のうち、どれを取り組むかで話が始まります。そうではなくて目標として、町としてはこの項目を SDGs として打ち立てているのだから、この項目を教育活動に入れないと目標にいかないという議論がないと図れないと思います。その辺りがどうなのかということを SDGs については考えている所です。いかがでしょうか。

コ ン サ ル : 町の計画でSDGsについて記載されているものは、阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生総合戦略及び人口ビジョンの計画になるかと思いますが、どこに重点を置くということではなく、17項目を網羅的に捉えていると理解しています。

町長の所信表明の中でもSDGsを中心に取り組んでいる部分もありますので、近い将来ヒアリングなども行い、どこに重点を置くか伺ってみたいと思っています。ただ、17項目のうち一項目が教育となっていますので、教育についての公平性、機会均等、そのような基本的な所に立ち返って、教育振興基本計画の中にきちんと位置づけるということがまず基本になると考えています。また、教育以外の項目については、例えば人権や環境の分野については、これまでも学校教育の中で取り組んできているため、関連付けて進めやすいものだと思います。ヒアリング等確認させていただいて、重点化するものがあるかどうか検討していきたいと思っています。

委 員 長 : よろしいですか。

委 員 : 基本理念を今日決める必要があるのでしょうか。阿見町としてSDGsの何に取り組むか、それから令和の日本型教育などについても示してもらって、これだから子どもの個性を生かすなど、もう少しこの選択肢がないと答えが出ないと思います。

多様性と持続性を考えれば、今SDGsでも多様性と持続性について言われているわけなので、その辺りの話をもう少し示していただければよいと思います。

事 務 局 : SDGsについては今後協議を進めながら、実際の施策については第3回の会議以降でご提示させていただきたいと思います。

ご質問いただきました3案については、あくまで例示であり、実際の計画を策定するにあたってのたたき台となっています。現計画の基本理念を踏襲することも含めて議論を深めていければと考えています。そういった意味での提案です。

副 委 員 長 : 1案～3案の内容ですが、単純に小中学生の母親の立場から言うと、これはついていけないです。親として個人的な感想で申し訳ないですが、頑張っているけど少し難しいところがあります。皆さんいかがでしょうか。

委 員 : この3つの案を見た感想ですが、私の立場から見たら、もう少し子どもたちを応援できるような、主役は教育を受ける子どもたちなのに、その子どもたちをどれだけ応援できるのか、その方法を考えようと計画策定に向けて検討を進めているので、分かりやすくと言いますか。ポジティブさを出したような、基本構想と言われるとすごく難しい言葉を付けないといけないですが、スローガンのような、そのような身近な言葉でもよいと思います。

委 員 : 何でもSDGsという言葉をつければよいような気がしますが、このSDGsというのは今までも学校教育ではきちんと取り組んできたのですよね。未来に向けて子どもたちの生きる力を育成してきました。わざわざSDGsという言葉をもとに付けなくてもよいと思います。教育界で流行語なので、勿論よいことも沢山書いてありますからよいでしょうけれども、学校教育として今までやってきたことをもっと発信できるような言葉がよいと思います。

委 員 長 : SDGsは流行でもありますし、持続可能な社会の創り手を育成するというのは

大学生にはよいかもしれませんが、小中学生には少し遠い理念になってしまうため、もっと具体的でよいと思います。町で17項目の何を中心に捉えているかというのは恐らくないと思います。17項目全て重要で、それが持続的な社会の創生には全て必要なので、1個取り上げて進めていくことはまずあり得ないので、持続可能社会を作るため、色々な知識を持った子どもたちを育てようということなので、そこは問題ないと思います。ただ、小中学生にはすごく遠いテーマになっています。どうなのかなと思いますが、具体性はあるので目標を持って取り組みやすい部分はあるかと思います。

個人的には一番下の「自分を信じて挑戦する力を育成する」この力を付けてもらいたい、自信持って進んでもらいたい気持ちがありますが、抽象的過ぎる所があるため難しいです。2番目の可能性をさらに引き出す教育と言いますが、これも抽象的すぎて分からない気がします。他はどうでしょうか。

委員： SDGsという言葉が出て大分年数が経ったため、項目の中に入れていくのはとてもよいと思いますが、今さらそれを前面に掲げるのは少し違うと思います。今、よい言葉が浮かびませんが、保護者からすると多様性が求められ、認知されている中で、人と違うことを認めてあげるといようなことを入れてもらえるとよいと思います。

私が子どもの時は、不登校は弱い、気合が足りないといった話になりましたが、今はそうではないため、一人一人違うことを認めてあげることを入れてもらえるとよいと思います。

委員長： 2番目、その個性を生かすという所は非常に重要な点なので非常に良いかと思いますが、その先まで書くかどうか、可能性を最大限に引き出すのは難しいです。

委員： プレッシャーになります。最大限に引き出すという言葉は、できなかったらどうなるのという話になってしまい、プレッシャーを感じてしまうので、違う言葉の方がよいと思います。どんな状態でも個性を認めるという方がよいと思います。今は大学でも通常の試験だけではない入試なども始まってきているため、勉強ができなくても何かに特化していれば大学に入れます。そのようなものを認める、多様性について入れてもらえるとよいと思います。

委員： 全体を見させていただいて、恐らくベースになっているのは文科省や県の基本理念、言い回しだと思いますが、町として担っているのは中学校までの義務教育の部分ですよね。町として目指すのは義務教育としてどこを目指していくか、その部分をもう少しかみ砕いた表現で持って行った方が着地しやすいと思います。

国が言うとうとうしても大学教育まで踏んでしまう大層な表現にならざるを得ない所がありますが、中学校までなので、そのレベルでどうしようかと考えた方がよいと思います。

委員長： ありがとうございます。個人的には、子どもの教育に関して自己肯定感を育んでいくことは重要なことだと思います。一番下はとても好きなのですが、抽象的すぎて難しい気がします。将来を考えた場合に夢を持って、勉強もそうだけれども、活動していく上では自己肯定感がないととてもやっていけないと思うので、義務教育のうちには自分が何でも挑戦できるといった自己肯定感を育むような、そ

のような教育ができれば理想ではないかという気はしています。その後は個人も個性を生かしてどんどん活躍してもらえればよいですが、義務教育の段階で自信をなくしてしまっただけでは良くないと思いますので、そこは町全体として理念として掲げていってもらえると、それに合わせる形で、町全体で応援していくということができればよいと思います。

委員： 下段の部分が引っ掛かります。持続可能な社会というのは、それが出るからSDGs なのかもしれませんが、最大限という言葉が引っ掛かり、一人ひとりの可能性を広げる、子どもの個性を生かす能力を高めるという部分は理解できますが、今、委員長がおっしゃった、自分を信じて挑戦する力を育成する部分については、下段に入れば上でも下でもよいのかなと思います。何かを根拠に文言を求めていくと、今はSDGs なのか令和の日本型学校教育なのか、阿見町はどんな子を育てるのかという所が阿見町の教育だと思います。

阿見町が求める、例えば社会人像など何なのかと言ったときに、どんな子にどんな方向でその子たちを育てるのかというゴールのような形になってくれると、それを目指していこうというように言えるため、それが例えば可能性を広げたり、個性を生かした能力を高めたりというのは腑に落ちますし、委員長が仰っていたようにもっと自己肯定感を持って、自信を持って何か取り組めるような子どもに、また、大人、社会人になっていくということであれば。ただそれはここに文言を混ぜて決めるのではなく、ベースになるような、阿見町が求める人間像みたいなのが何かあれば、そこに行くために子どもたちにどういう目標を持たせて取り組ませるかが出てくると思います。阿見町にしながら阿見町が求めている人間がよく分かっているなくて申し訳ないですが、恐らく皆分からないと思います。

阿見町で学校教育をしている自分が、阿見町が求めている人間像を言えないのかとなると謝るしかないですが、それを出してからこそ、計画の意味があると思います。やはり、町が今求めているのはこのような人間であるという部分が欲しいです。

それが例えばSDGs という言葉でなければ、例えば自分のことだけ考えないで周りのことをよく考える、思いやりがあるなど、色々と言葉を変えられると思います。持続可能だからSDGs に結び付けるのではなくて、もう少し一般的な、求める阿見町の社会人像みたいなものがあると、このような町民になろうということを謳って、あのような大人になろうというのがあるととてもやりやすいと思います。その辺りは議論されないのでしょうか。

そのようなものを議論して、阿見町と言われたときにこれだというものを繋いでいった時に、そのような社会人像が出てくるのであれば、だからこうなったのかという腑の落ち方があります。今は本当に社会が言われていることを口にしただけで、それを繋ぎ合わせて果たしてそれは阿見町が求めているものでよいのかと言われると違うと思います。今、求められているならこれでよいとなってしまうと、先ほどおっしゃったように、どこの市町村でも同じような言葉で片付けてしまうのであれば、もちろんそれも間違いではないですが、せっかくやるのであれば阿見町の方が見えたと、私達も子どもに向かって言いやすくなると思

ます。

委員： 小中学校の義務教育は、やはり知力、体力、徳、気持ち、スポーツ、それから基本的な知識、それが合わさって一つの素晴らしい人間になると思います。

委員： 少し話題が変わってしまいますが、この3つの文言ですね。1つ目が、作り手を育成する。3つ目が、挑戦する力を育成するということで、2番目も何かを育成するような文言で行くと、1つのキャッチフレーズにするのであれば通りがよいと思います。文言は浮かびませんが、作り方としてはその形の方がよいと思います。

委員長： 難しいですね。みんなが理解しやすく、子どもたちも理解できるようなフレーズというのが難しいかもしれませんが、そうですね。全て統合するのは可能かもしれませんが、町としてどのような子どもを育成していきたいのかという所をもう1度検討していただいて、いいものを一つ作っていただければと思います。この中から選ぶのは難しいので、他はどうでしょうか。

委員： せっかく学び合い、支え合い、共に輝く人づくりとありますので、学び合いというのを何か工夫して、一つ支え合えるようなものがあって、この大きなテーマが生きるような。

委員長： では、ここを変更するということでしょうか。

委員： 現計画の基本理念の方が、何となく温かいし、提案の内容よりはこちらの文言の方がよいと思います。その辺りで何かアレンジをするような感じであればすつと入ってきます。現計画の基本理念は温かみのある町だと思えるような文言です。提案内容だと、今求められているものを精いっぱいやりなさいよと、先ほどおっしゃったようにものすごいプレッシャーがかかったような文言に感じます。温かい町を目指していくか、それとももっと何かに特化した、それこそ伸びゆくまちを目指していくのかでも文言が変わってくると思います。阿見町が目指す方向が一つ見えてくるような文言であると、同じ方向に行ける気がします。町長がどのように考えているかという所もあります。

委員： 教育長がこうしたいという考えもあると思います。

教育長： ここに諮って意見をいただこうということで、私もこの三つの文言を見た時に前の方がよいと思いましたが、皆さんにご検討いただいて決めていくと。この三つから選ぶのではなくて、もっといい言葉があったらそれをいただいて、そのまま使用していきたいという話は事務局とも話しています。今も貴重なご意見をたくさんいただきましたし、生涯学習のスローガンなどもありますので、これについても聞いていく必要があると思います。

委員長： 現行理念をバラバラにするような感じで3つの文言が挙がっているような気がしますので、もう一度持ち帰って考えていただくということで、慣れたら違和感なく入ってくるのかもしれませんが、検討をお願いします。

他はいかがでしょうか。次のページの所もよろしいでしょうか。施策の基本方向の案も、4本から5本の柱になっています。この赤字の所が新しく入ったということですよ。

委員： 1つ目の「状況に応じ、授業にICTを活用したオンラインと対面～」、3つ目の「地域や地球規模の課題を自らの課題として～」について疑問に思ったのですが、

ICT が 4 つ目にも出てきます。課題が違いますが、4 つ目については ICT の整備をすること。何故わざわざ分けないといけないのでしょうか。技術は進んでいるため整備をする必要はありますが、ICT 環境整備になってまた出てきます。

それから、3 つ目の「地域や地球規模の課題を自らの課題～」という文言は、少し規模が大きすぎると思います。地域からグローバル社会に広めるような目標をここに入れないといけないのでしょうか。

コ ン サ ル : その辺りについても将来像を含めて状況を説明していきたいと思います。

委 員 長 : 今の教育に求められている新しい文言が差し込まれていてよいと思いますが、5 つ目が遅れていると思います。本当は地域と共にある学校づくりが入らないと、今はコミュニティスクールということが言われているため、まさに進めなければいけない所ですね。あえて触れないのか、手を出さないとまずい気がします。文科省からも言われているのに、まだ阿見町は学校との連携の話をしているのかというと、違うと思います。ましてやこれから 5 年後だと、地域と共にある学校、コミュニティスクールをどう推進するかという世界をやっぱり行政が引っ張ってくれないと、学校はなかなか運営ができていきません。

事 務 局 : おっしゃる通りですので、今後整理していきたいと思います。

委 員 長 : 他はいかがでしょうか。

委 員 員 : 私も今言われた 5 番目が非常に薄いと思います。中学校でも部活は外部講師、なるべく外部コーチを招いて、部活動の顧問の負担を減らすなど、かなり進めています。それなのに地域、学校との連携の 2 行で終わっているため、もう少し内容を厚くしてもらった方がよいと思います。

委 員 長 : ありがとうございます。そのようによろしくお願いします。他はどうでしょうか。SDGs の所も無理やりな感じがします。町全体として取り組んでいるのならば話は違いますが、そうでなければそこまで流行に乗らなくてもよい気はします。

委 員 員 : 新しい時代はどんな時代かと言うと、これだけ予測不能な時代になってきました。コロナウイルス感染症も生まれて初めての体験ですし、戦争を目の当たりにしたのも予測不可能なことで、これからまた何かが起きるかもしれないという、将来の不安な部分も含めた新しい時代だと思います。そんなに不安な材料は入れない方がいいのか、予測不可能な時代だからこそ連携も必要で、自分の課題を見つけて解決する力も必要だと、それがまさに生きる力ですね。その辺りも折角 3 番目の中で新しい時代に対応する能力と書いてあるのなら、どこかに入れてもらうとよいと思います。

委 員 長 : 貴重なご意見だと思います。是非お願いしたいと思います。確かに新しい時代なのですが、イメージとしては暗いイメージと言いますか、それがずっと継続するイメージになるような気がします。変化を入れた方が、時代の変化というのかもしれませんが、突発的なことがよく起こってくる世の中なので、そのようなことにも対応できる感じの方がよい気がしました。

委 員 員 : 自然災害なども考えないといけません。色々な困難なことはやはり落ちてくると思います。

委 員 長 : やはり時代の変化ですよ。
 委 員 長 : 変化の方がよい気がします。
 委 員 : 前提の確認ですが、阿見町で SDGs に関する町の行動計画、策定作業のようなものは始まっていますか。
 事 務 局 : 第 7 次総合計画が来年度から 2 か年で策定予定になっていますので、その中で SDGs の目標については記載があると思います。
 委 員 : それを担当する分野を各課に振り分けて、事業出しをするのでしょうか。
 事 務 局 : そう進めていくと思います。
 委 員 : それだともし教育委員会が計画を出す場合、何かリンクさせないといけない。
 事 務 局 : 今回の教育振興計画が 11 年になっているのは、総合計画策定より 1 年早くこちらが動き出しているため、帳尻を合わせるためです。次回の後期計画からは同じ段階でスタートできる形に持っていきたいと考えていました。
 委 員 : すり合わせはよいということですね。
 事 務 局 : はい。次期からは一緒に策定が進行していくと考えています。
 委 員 : この段階であまり SDGs に踏み込まない方がよいのではないですか。
 事 務 局 : もしかしたら教育振興計画と総合計画で整合しない部分が生じてしまう可能性はあります。
 委 員 : それがあると担当課から突っ込まれると思います。
 委 員 長 : 貴重なご意見なので検討していただきたいです。
 事 務 局 : 策定の中で得た情報があれば、こちらでも対応できる範囲で対応していきます。
 コ ン サ ル : 1 点だけよろしいでしょうか。中身は細かく見ていませんが、阿見町創生総合戦略(まち・ひと・しごと)の中で SDGs について、施策とゴールを紐づけるという所まではやっていると把握しています。そこが実態として具体的にどう落とし込まれているかまでは、まだ紐付けている状態なのかもしれませんが、これからそれが具体的にできるだろうと捉えています。
 委 員 長 : 様子を見るしかないですね。他はどうでしょうか、よろしいですか。貴重なご意見が出ましたので、検討よろしくをお願いします。

(3) その他

委 員 長 : 「(3) その他」に関して、事務局からお願いします。
 事 務 局 : 今回の資料として、前回の議事録を付けています。内容については委員の個人が分からないようにまとめています。今後の予定については、今年度は本日の策定委員会でスケジュールは終了となります。令和 4 年度については計 3 回の策定委員会を予定していますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。
 委 員 長 : 何かご質問等あればお願いします。
 委 員 : 第 3 回策定委員会の概ねの時期は決まっていますか。
 事 務 局 : 第 3 回の時期は 7 月下旬を予定しています。第 4 回が 11 月下旬、第 5 回が 2 月上旬の予定です。
 委 員 長 : 他はよろしいですか。長時間にわたりご苦勞様でした。これで審議の方は終了しますので、事務局にお返しします。

4. 閉 会

事 務 局： 以上をもちまして、令和 3 年度第 2 回阿見町教育振興基本計画策定委員会を閉
会いたします。ありがとうございました。

以上